

水俣で半導体人材育成へ



半導体産業の人材育成研修について説明するアスカインデックスの田中礼右社長（右）＝26日、水俣市役所

半導体・液晶装置などの売買を手がけるアスカインデックス（東京）は26日、半導体製造の専門人材育成に乗り出すと発表した。電子デバイス加工を担う水俣市の高度技術センターに、半導体の製造プロセスを一貫して学べる研修センターを併設。9月から受け入れを始める。

半導体エンジニアは全国的に不足し、台湾積体回路製造（TSMC）の菊陽町進出により加速が見込まれる。田中礼右社長は「日本の半導体産業の復活を支える人材の輩出に寄与したい」と語った。研修には、バンブと呼ばれる電極や成膜の製造装置を

アスカインデックス 研修センター開設

活用。当面は2～3日の日程で、基礎知識の習得と10前後の工程を体験させる。学生や社会人を対象に年間100～120人程度の受講を見込む。

現在、協賛企業のヤマトマテリアル（東京）の社員が試験研修中。田中社長は「大学や高専などとも連携し、より長期で持続可能な教育体制を実現させたい。将来的には1～2年のコースも検討する」と話した。

アスカインデックスは2020年10月、チソンの事業子会社JNCの傘下だったサン・エレクトロニクス跡地に進出した。サン・エレ社の電子部品事業の設備を引き継いだほか、従業員14人が高度技術センターに在籍している。

（上野史央里）

T S M C

半導体エンジニア